

No.1 Aくん (平成23年3月卒・現23歳) 遠洋マグロはえ縄船

- * 約1ヶ月をかけて南米、ペルー沖に行き、同海域にて11ヶ月間にわたり操業。その間、漁獲物の水揚げや食糧等の補給も全て洋上で行い(3ヶ月に1回程度)、外国の港には一切、寄港なし。
- * 大変なこともあったけど、ひと航海やった達成感がすごくある。とても自信がついた。
- * 毎日の生活、作業、風景などに変化がないことが一番つらかった。
- * 日本に帰ってきた時は、これまで普通だったことがとても楽しく、新鮮な感覚。
- * 船上では全くお金を使わないので、貯金も十分できるし、帰った時には思い切り羽も伸ばせる。
- * 学園での実習(差し継ぎ、ロープワークなど)は非常に役立った。
- * 船上では行動が遅いと事故につながる、また時間を守ることが重要だと感じた。
- * 事故や怪我をしないよう、すごく気をつけた。
- * 使った道具は必ず元に戻すこと、また道具は大切に扱うこと。
- * 進んで仕事をすると、周りもよく面倒を見てくれる。
- * 男の世界なので、多少のやせ我慢をしても、仕事しないといけないこともある。
- * 船員は、日本人7人とインドネシア人15人。コミュニケーションが取れないと大変だが、日常会話の日本語はできるので心配は要らない。
- * 海技士の免状があれば、早く役職にも就けるし、給料もいい。学園にいる間に、取れるものは取ったほうがいい。
- * 在校生へ、伝えたいことは。「自分のものは自分で管理し、物を大切にする、また最後まで使い切ること。自分から先輩漁師に積極的に声をかけて、仕事を進んでやり覚えること。仲間を大切にする。」



生徒の前で1年の体験を語るAくん
(平成24年5月28日)



操業の様子 (マグロはえ縄)